

## 劇評

シャインハウス・シアター

作・演出：ジョン・ボーユエン [台湾]

『真夏の奇譚集』

BIO 文化週報 | 藝聞集錦

2011年8月14日 / 星期日
旺報

---

NEWS

台灣表演藝術爆發的態能以戲劇界最為顯著，不斷推出各種創新戲碼，其中年輕世代勇於挑戰舊有窠臼，由一群新秀表演者組成的曉劇場，9月初將於民宅公寓地下室，以《夏日微涼夜話》，探索鬼月之於人對生命的不安所凝聚的投射。國光劇團11月將前往大陸，演出去年以時裝方式呈現的新編京劇《孟小冬》。

### 民宅裡曉劇場 鬼月說夏日微涼夜話

■特約記者葉聿嵐／台北報導

△ 灣的小劇場不僅演出的團隊多，聚集的場地及節目內容更是各異其趣。今年甫自北京巡迴返台的曉劇場，9月初將在民宅公寓的地下室，遊走民間信仰的禁忌，挑動觀眾的恐懼神經。

一般人鬼月拜鬼、敬鬼，對「鬼」避之唯恐不及，曉劇場卻反其道而行，大膽邀請觀眾到公寓裡聽鬼故事。徘徊兇殺現場陰魂不散的怨靈，來不及出世即被母親結束生命的嬰靈，一個個故事將由演員擔任說書人，引領觀眾進入每個人的恐懼經驗。並結合黑盒子劇場的空間感、觸手可及的親密距離，還有劇場裡一片漆黑時被放大的感官刺激。

為什麼我們怕鬼、忌諱或敬畏鬼的存在，某種程

度上反映了處在當下社會中，人們對於生命的不安定感，導演鍾伯淵解釋：「鬼，是人類情感強化的投射體。《夏日微涼夜話》劇中雖然討論的是鬼，但每個主題無不回到人類身上所投射的強烈意念和情感。」劇中擷取的故事，改編自台灣近期真實的社會事件。

本次演出的型式，也將挑戰觀眾在劇場裡的安全感。觀眾坐在場中，四面八方可能傳來任何聲音。觀眾必須在幽暗的空間中，尋找細微的聲音，在黑暗中隨時保持警覺，以備下一秒可能出現在身後的呼吸或腳步聲。

本次演出曉劇場推出半夜11點的午夜場邀請觀眾看鬼戲。膽子沒那麼大的觀眾也還有下午3點及



◀ 《夏日微涼夜話》在曉劇場藝文空間演出。  
(曉劇場提供)

マンションの地下室を利用した作品。信仰におけるタブーや役者から語られるそれぞれの幽霊にまつわるストーリーにより、観客の恐怖心を煽る。また、会場に設置された黒い箱形の舞台は、観客との距離を縮め、暗闇がさらに感覚を刺激する。

我々は、なぜ幽霊を怖がるのか。それは、幽霊を畏敬の存在として捉えているからであり、また、現代社会における、人々の生きることに對する不安定さを反映しているからだ。演出家、鍾伯淵は「幽霊とは、人々の感情が強烈に投影されたものなのだ。幽霊のことが語られてはいるが、それぞれのテーマは、人々に投影される強烈な思いや感情と必ず関係があるのだ。」と語る。作中で語られるストーリーは、台湾で最近起こったりアルな事件などを改編したもの。また、演出も、観客の劇場における安心感というものを挑発している。会場内の四方八方から様々な音が伝わってくる。観客は、暗闇の中で、それらの細かい音に耳をすませ、常に緊張を保たなければならない。

本作は、夜の回は23時に開演する。度胸のない人は、15時と20時の回も選択できる。制作の李孟融は、「一人で幽霊の話を見るのは怖いかもしれないけれど、他の観客と一緒に、怖くて死にそうとか、見ていられないという心理状態を楽しんでもらえたら。」と語る。

2011.8.14

Want Daily B10 Culture Weekly. Taipei.